

Hello! FUJISEI

No. 338

ライフプランも変化

晩婚化、晩産化が進行 婚姻率は5.1%に

人生80年時代、夫婦は苦楽を共にし、人生の大半を一緒に過ごすパートナーですが、就職、結婚、出産、住宅取得、子供の進学、定年退職…といったライフイベントを中心にした生活設計の枠にあてはまらない人生を送る人が増えてきています。

内閣府の「平成28年版 少子化社会対策白書」によると、婚姻件数は、第1次ベビーブーム世代が25歳前後の年齢を迎えた1970（昭和45）年から1974（昭和49）年にかけて年間100万組を超え、婚姻率（人口千人当たりの婚姻件数）もほぼ10.0以上でした。その後、婚姻件数・婚姻率ともに低下傾向となり、1978

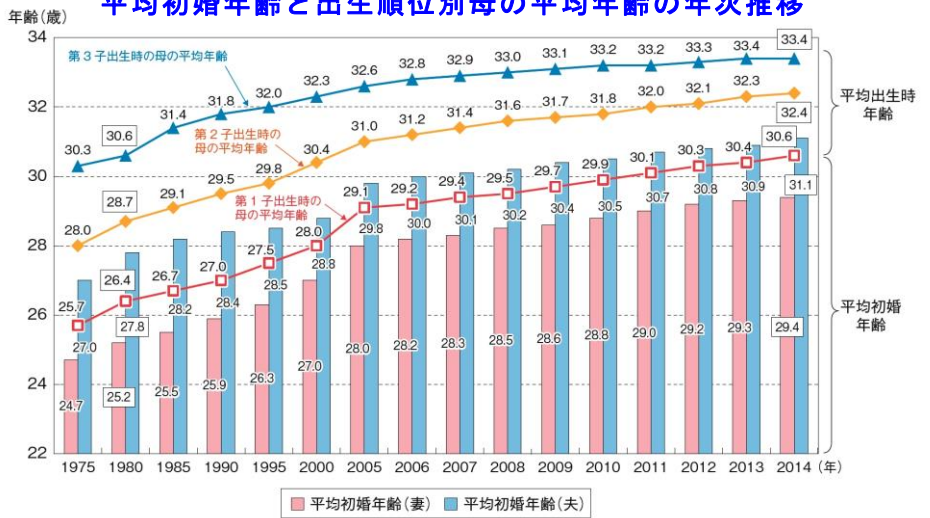
（昭和53）年以降は年間70万組台（1987（昭和62）年のみ60万組台）で増減を繰り返しながら推移しました。そして、2011（平成23）年以降は70万組台で推移しており、2014（平成26）年は、64万3,749組（対前年比1万6,864組減）と前年に続き過去最低となり、1970年代前半の半分の水準となっています。

また、平均初婚年齢

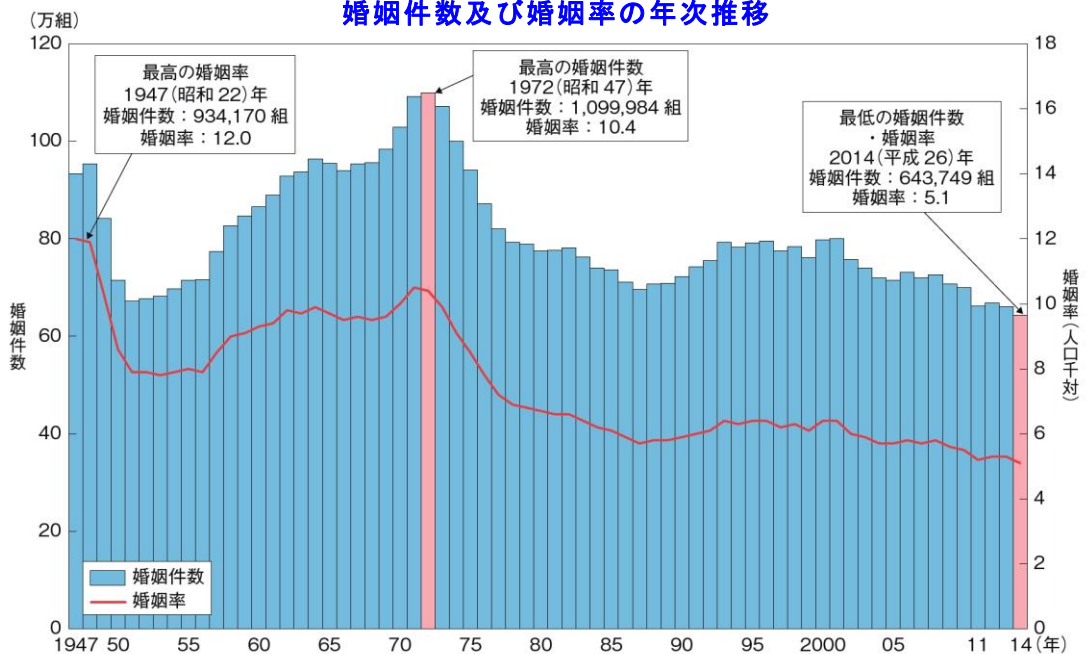
は、2014（平成26）年で夫が31.1歳、妻が29.4歳と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が進行しています。1980（昭和55）年に

は、夫が27.8歳、妻が25.2歳でしたから、30年余りの間に、夫は3.3歳、妻は4.2歳、平均初婚年齢が上昇しています。

平均初婚年齢と出生順位別母の平均年齢の年次推移



婚姻件数及び婚姻率の年次推移



内閣府「平成28年 少子化社会対策白書」より

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル